県中教育

随想

教職員が育つ学校を

県中教育事務所長　齋藤　仁道

二十七年前、新採用の郡山市から異動し矢祭町の学校に勤務していた時のことである。福島県教員採用案内「NEXUS（ネクサス）」というパンフレットに次のような文章を掲載させていただいた。

【教師になって六年目。初めて担任した子どもたちと会う機会があり驚かされたのは、成長した姿だけでなく、教師を見る目の「鋭さ」です。

私の言動の奥にある感情まで感じ取り、覚えている子どももいます。純粋な心で人や物事と接している子どもたちは、目に見えない教師の気持ちも感じ取るのでしょう。そして、教師の何気ない言葉かけや接し方が子どもを助けたり、苦しめたりするのかもしれません。

子どもとの関わり方を深く考えるきっかけになったことを校長先生に打ち明けると「焦らないで、自分らしく」というアドバイスをいただき気持ちが楽になりました。

教師という職業は、毎日毎日が悩みの連続ですが、悩んだからこそ教師には「心のゆとり」が生まれ、それが子どもに伝わると思います。

子どもたちと一緒に喜んだり悲しんだり、学校って毎日楽しいですよ。】

不登校の子どもを何とかしたい。分かりやすい授業をしたい。期待されているサッカーやバスケの指導はどうすればよいか・・・。当時の私は、学級経営や教科指導等、毎日何かしら悩んでいたように記憶している。

悩みながらも「学校って楽しい」と思えたのは、何でも相談でき、分からないことは教えてもらうことができた同僚の存在が大きい。時には、指導方法でぶつかることもあったが、そのことがまた自分自身を成長させてくれた。学校の教育力が教師としての自分を育ててくれたのである。

現在、社会の急激な変化に伴い、教育課題は多様化、複雑化し、また、教職員の大量退職、大量採用期の中、年齢、経験年数の不均衡により各学校の教育力をどのように維持、継承していくのかという大きな問題がある。

今後は、教職員の人材育成を「育てる」「育てられる」の一方向的な視点でとらえるのではなく、学校に関わる教職員全員が育つ主体者としての自覚をもち、教職員自らが成長しようとする学校としての仕組みや状況を、校長のマネジメントを基につくりだしていただきたいと思う。

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所

発行責任者
齋藤　仁道

編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

できることの先

田村市教育委員会教育長　飯村　新市

「３×８になる問題を作りましょう。」と、６年生に問いかけたところ、２割近くが作れず、３割の子が「リンゴが３個、ミカンが８個あります。掛けるといくつでしょう。」という意味の問題を作ったそうである。３×８の答えは、たぶん全員の子が言えると思うが、作問は半数の子ができない状況であった。

これは、子どもにとっては九九表を暗記した結果、答えが出せるようになっただけ、九九表の暗記も、「やれと言われたからやったまで。」と、なっていまいか。暗記の速さを競わせたのは、励ましているつもりのはずが、結局、教師が導いてきた結果に違いない。

こういう教師が導いて定着させた数学的事実は、三角形の面積公式場面など様々な場面でみられるが、一度できた、あるいは導いた結果の過程や意味理解になかなか戻らないのが常である。

答えを出したときに九九表や面積公式を自分自身でもう一度問い直してみて、九九や公式をわかり直すことを試みる子どもが多くなれば、九九作問は容易だろうし、何より授業は大きく変わるはずだ。クラス全体が、答えを導くだけに満足しなくなるだろう。

全国学テの算数・数学の田村市の結果は、惨たんたるものである。あと一問ずつできれば全国平均はおろか上位にも匹敵すると、私自身は言い続けてきたが、その一問が正解できないのが現実である。子どもたちに「わかり直す」姿が定着すれば、と願う。

これまでのように、パターン化した答え方のみひたすら定着させようとして、練習に次ぐ練習を強要していくうちに「できた」という意識に導くことだけが続く限り、田村市の子どもたち、未来に羽ばたくことができるのだろうか。子どもたちは、本来わかろうとしているはず。たとえ、できたといっても、もっと深くできるようになりたいはずだ。

子供の読書活動優秀実践園としての取組と今後の展望

平田村立ひらたこども園

エントランスに続く広大な読書スペース「えほんのもり」。そこで子どもたちが絵本と触れ合い、感じたこと、想像したことを思い思いに言葉にしながら過ごす時間は、安らぎと冒険心であふれています。

ひらたこども園では読書活動の柱として「家読」を推進しながら、絵本の貸し出しを行い、乳幼児期からの家庭における読書活動を支援しています。また、保護者を対象に読書意識アンケート調査を行い、保護者のニーズをつかむとともに、アンケート結果のまとめや絵本だよりを通して、読書活動が子どもたちの育ちにおいてどのような影響を与えてくれるのかなど、様々な啓発を行っています。

このたび、これらの読書活動が評価され「子供の読書活動優秀実践園」として、文部科学大臣表彰をいただくことができました。本年度、文部科学大臣表彰が幼稚園・こども園等まで拡大され初めての表彰であり、大変うれしく感じるとともに、今後も表彰園が増えていくことで、これまでスポットの当たらなかった乳幼児施設での読書活動も活発になっていくものと力強く感じています。

受賞にあたって本園での読書活動を少しではありますが紹介いたします。前述の保護者対象の園内図書の貸し出しや週末に園児自らが選書し持ち帰る取組は、家読推進事業の柱として何年も続ける中で定着してきたものです。文字の読めない乳幼児期の子どもたちにとって大人のかかわりは不可欠であり、家庭で読書に取組む時間が親子の触れ合いの時間になってほしいと願っています。

また、園職員自身も読書環境における大切な「人的環境」であること、これを意識して活動しています。園内の絵本お話し会「みるみるの会」や日々の読み語り、さらには読書活動に特化した園内職員研修会を通して、読み語り技術の向上だけでなく読書が子どもたちに与える影響についても学び、読書活動の質の向上を目指しています。地域ボランティアの協力による絵本お話し会なども開催されており、園内の読書活動は、今後さらに充実していくと思われます。

「えほんのもり」で子どもたちが「先生！これ読んで！」と一冊の絵本を手に駆け寄る姿は、輝く笑顔とワクワクの期待でいっぱいです。子どもたちが当たり前に絵本を手にして、その世界観を味わい、体験したかのような楽しさや喜び、悔しさや悲しみ、それらを積み重ねていく経験をこれからも大切にしたいと思います。

ふくしまっ子元気大賞受賞を受けて

田村市立船引中学校

本校では、生涯を通して地域（福島県、田村市、船引や住んでいる地域）の体力づくり、健康づくりをリードできる人材育成を目指し、学校・家庭・地域のトリプルパワーで「子どもたちの未来のための体力づくり」にあたっています。その活動が評価され、２年連続で「ふくしまっ子元気大賞」を受賞いたしました。ここでは、本校の取組の一部を紹介いたします。

①人生１００年時代を見据えた学校行事

校内陸上大会では、生徒の声がきっかけとなり誰もが楽しめる「玉入れ」「障害物競走」の２種目が新設されました。生徒が中心となって種目の企画から運営までを行い、新たなスポーツへの関わり方を体現しました。

②人生１００年時代に通用する健康維持（長期休業中の取組）

長期休業期間に、「運動不足解消」「肥満予防」の観点から、なわとびに挑戦しました。自宅での食生活と関連させ、消費カロリーを意識しながら、運動に取り組みました。

③人生１００年時代の憧れ（トップアスリート）

地域の競技団体からの支援を頂き、「水泳・バレーボール」のオリンピアン」から実技指導・講演会を実施しました。世界に通用する本物の泳ぎやプレイを「見る」「知る」ことから感動を受けたことはもちろん、挫折を経験したエピソード等から深い感銘を受けました。

最後に

今後も、生徒の姿や声を大切にし、実態把握をもとに取組や内容をバージョンアップさせ、未来に生きる「１００年時代の学びの場」を提供し続けて参ります。

初任者紹介～三か月を振り返って～

天栄村立天栄幼稚園
教諭　駒木根　里穂

四月に天栄村立天栄幼稚園に着任し、慌ただしく毎日が過ぎています。まだ慣れないことが多く、本当に自分がやっていることは子どものためになっているのか等、不安や焦りもありますが、優しく親身に寄り添ってくださる先生方や、毎日明るい笑顔をたくさん見せてくれる元気な子どもたちのおかげで、楽しく日々を過ごしています。

この三か月は、子ども一人一人と向き合うことを大切にしてきました。実際に関わってみることで、一人一人への言葉のかけ方や寄り添い方の違い、子どもたちに伝えることの難しさを痛感しました。最近では、少しずつ子どもたちとの距離が近くなったことで信頼関係が築け、話をしてくれたり、笑顔を見せてくれたりする場面が増え、やりがいを感じています。

これからも子どもとの関わりを楽しみ、日々子どもたちからも先生方からも学びながら、成長し続ける一年にしていきたいと思います。

平田村立蓬田小学校
教諭　渡邉　晶子

教員生活の始まりに緊張と期待や希望を抱え、平田村立蓬田小学校に着任しました。家庭訪問や運動会等の行事、日々の授業や学級経営。悩みが尽きることはなく、葛藤、反省を繰り返す日々です。

そんな中、子どもたちが今日は何を学習するのかとワクワクしている表情、できるようになったことに喜びを感じている様子、これらを身近で感じることができる喜びが、今の私の原動力になっています。失敗ばかりの毎日に不安を感じることも多々ありますが、子どもたちの生きる力を育むために自分が何をすべきか、どんな授業ができるかを考えなければならないと改めて感じています。

また、職場や関わってくださる先生方の支えやご指導のおかげで、毎日多くのことを学びながら過ごしています。ご指導いただいたことを実践し、授業力・学級経営力を高め、成長できるよう努めていきます。

田村市立船引中学校
教諭　杉田　槙之介

四月に田村市立船引中学校に着任し、早くも三か月が経過しました。

学級担任と部活動顧問を任され、不安と希望、緊張感の入り交じった思いでの教員人生のスタートでした。

この三か月は、めまぐるしく時が過ぎ、常に目の前のことに対応することで精一杯でした。特に学級経営では、生徒との温かい人間関係作りを第一に心がけてきましたが、自分の言いたいことや思いが伝わっているか、理解を得ているか等、説明の難しさを感じ、不安が残ることもありました。

そのような中、周囲の先生方がいつも相談にのってくださり、優しい言葉や助言を頂いていることが大きな励みとなっています。今後も、助言を頂き、自身の指導力を高め、学んでいきたいと思います。

また、生徒と一緒に充実した学校生活を送り、ともに成長できるよう、前向きな姿勢で取り組んで参ります。

福島県立石川支援学校
教諭　蛭田　智

石川支援学校に着任して、早いもので三か月が過ぎようとしています。子どもに伝えたいことが思うように伝わらなかったり、周りの先生方との指導力の差に落ち込んだりすることもありますが、優しい先生方に支えられて毎日楽しく勤務しています。

学校に勤務してから、学校という場所は子どもにとっても教師にとっても学びのある場所であることを再認識しました。私にとっては少しの違いであっても子どもにとっては大きな違いに感じるということや、日常の風景である花びらが舞う様子や風が吹く様子が、面白く魅力的なものに感じるということ等、今まで考えたこと、感じたことがなかった新たな発見を子どもから学ぶ機会が多くあります。子どもの視点や感じ方を大切にしていきながら、子どもとともに悩み、考え、そこから学び、子どもとともに大きく成長できる一年にしていきたいです。

郡山市立三和小学校
養護教諭　髙橋　美穂

新たなスタートからあっという間に三か月が経ちましたが、勤務する三和小学校の周りの豊かな自然とゆったりとした時間の流れに心癒されながら充実した毎日を送っています。

この三か月は、先輩の先生方や地域や保護者の方、そして元気な子どもたちなど、多くの出会いに恵まれました。出会った方々から様々な知識や経験を吸収し、成長することができました。まだ上手くいかないことも多いですが、先生方から学んだ、子どもたちとの関わり方や声のかけ方を日々実践し、スキルアップに努めています。子どもが保健室から出ていく際の満足そうな背中を見るときが、仕事をしていてやりがいを感じる瞬間の一つです。

今後も養護教諭として、けがや病気、悩み事などで来室した子どもに寄り添えるよう専門的な知識や技術の習得に努め、子どもの背中をそっと押すような保健室、養護教諭を目指して学び続けます。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課
社会教育担当より

地域連携担当教職員等研修会について

地域連携の先進地である茨城県水戸生涯学習センターの次長兼企画振興課長鈴木昭博氏を招き、地域連携担当教職員等研修会を六月二十六日に開催しました。

小・中・義務・県立学校教員や行政担当者で編成されたグループワークでは、SOUNDカードを使ったワークショップを行い、地域の現状を踏まえた連携方法や充実した学校の教育活動・地域コミュニティの活性化等について活発な意見交流がなされました。講話では、地域と学校の連携・協働がもたらす効果として、子どもたちに育まれた社会性や自己肯定感、教職員の多忙化解消、地域の教育力向上につながった等の各事例を紹介していただきました。

今後も、このような実践力が身につけられる研修会を展開し、よりよい学校教育を通したよりよい地域が創れる連携・協働を推進して参ります。

読書活動支援者育成事業研修会について

学校や図書館など地域で活躍できる読書ボランティア等の専門的な知識・技能の向上のために、本研修会を開催しております。

学校図書館の実践について郡山市立守山小学校学校司書の菅野睦子氏に、わくわくする仕掛けや心の居場所になる図書館づくりについてお話しいただきました。次に、浪江まち物語つたえ隊語り部の八島妃彩氏に、震災の記憶と教訓の継承の講話をいただきました。講義・演習では、元小野町地域おこし協力隊の宍戸佳織里氏より、『読書でコミュニケーション』と題して『ビブリオバトル』を紹介していただきました。

今後も、読書活動を支援する人材の育成や資質向上を図り、学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成に努めて参ります。

学校教育課管理担当より

教職員の服務規律の徹底

令和五年度は、本域内において、教職員の不詳事が相次ぎ、危機的な状況が続いております。

不祥事絶無に向けて、次の点を再確認の上、各校の実態を踏まえた実効性のある取組を確実にお願いいたします。

○冊子「信頼される学校づくりを職場の力で【令和六年四月改訂版】」の活用

・別冊資料のチェックシートの活用（新たに追加した「これだけは１０箇条」及び「風通しの良い職場づくり」）

○不詳事防止に係る管理職の取組

・所属内におけるコミュニケーションの活性化

○服務倫理委員会の定期的な開催

・当事者意識に加え、同僚や管理職としての責任に対する意識の醸成

・地域住民、保護者等からの意見の取入れ

再発防止と信頼回復に、個と集団の力を最大限に生かして取り組んでいきましょう。

学校教育課指導担当より

イノベーション人材育成推進教員活用事業について

第七次福島県総合教育計画施策四の取組の一つに「イノベーション人材育成推進事業」があります。福島の復興を担う人材の裾野を広げるため、小・中・義務教育学校の算数・数学、理科を中心に実践研究に意欲的に取り組むイノベ推進教員の育成と活用を通して、理数教育における探究的な授業等を行い、児童生徒の理数分野への興味・関心の向上と、教員への普及を目指します。

本県では、算数・数学における学力や、理科の観察実験における指導力の向上が課題とされています。

県中域内では、イノベ推進教員による公開授業研究会を算数・数学で計四回開催し、一月には文部科学省の学力調査官を講師にお迎えします。理科では三回開催し、十一月には学習指導法の体験講座を行います。

算数・数学、理科が好きな児童生徒の育成のために、有意義な研修の場となるよう努めて参ります。

ふくしまＧＩＧＡリーフレットの活用について

ＧＩＧＡスクール構想の下、各学校においては、ＩＣＴ機器の整備が進み、デジタル化された情報の利活用に向けて、教育活動が展開されました。今では、端末を手に子どもたちが課題解決に向けて話し合ったり、考えを深めたりする道具として活用する姿が多く見られています。これは日頃より、実践を積み重ね、子どもたちの学びが深まるようご尽力いただいた先生方の成果の表れといえるでしょう。

その一つの成果物として、令和三年度より三年間で推進してきた「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」と「次世代のためのメディアリテラシー育成事業」の古殿町立古殿小学校・古殿中学校、郡山市立湖南小中学校を含めた県内の推進校の取組内容が、リーフレットという形で令和六年三月に各学校に配付されました。今後のＩＣＴ活用による授業の充実や情報モラル教育の推進のために、推進校の実践事例を参考にしていただき、授業づくりや今後の教育活動の取組に生かすなど、積極的なご活用をお願いします。